

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		にじいろクラスフラット札幌				公表日		2026年3月25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	・運動や遊び内容により、公園活動や街路散策等、環境整備・調整を継続的に実施する。	・児童個々の発達特性の考慮と、その時の状況での臨機応変な判断で環境調整が必要。職員間でタイムリーに調整を実施する。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	・児童の状況や特性に応じて、管理者は判断して調整を実施。	・当日の児童状況により、管理者・自発管が相談して判断の上、調整を継続する。・職員の予定や見通しを把握し、早期調整を行う。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・死角が少ない構造であり、環境整備を行っている。情報伝達が速やかに行いやすい環境。カメラの設置。	・児童が把握しやすい掲示物の評価を必要時変更。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2	・2階の事務室を環境整備して併用して使用中。	・事務室は視覚的に情報量が多く落ち着きにくいいため、3月中に2階の一室を環境整備し療養室とすることとした。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	・今年度の結果を、職員会議で共有して共有を行っている。内容をもとに、改善点を検討した。	・改善点を検討し、年間の取り組みとして位置付けている。今年度は、実施後の保護者評価を受けて、業務改善につなげていく。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	・保護者評価をもとに、実施時期と第3者を検討中。	・実施時期と第3者の特定を検討、実施していく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	・管理やスタッフが研修の通知をしている。全員が受講の必要が内容は受講し、受講後に意見交換している。	・虐待防止の研修を新年度早くに実施予定。・強度行動障害児への支援について基礎研修樹生予定者2名。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6						
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	・個別支援会議は週1回予定し業務調整。スタッフ全員で意見交換・支援検討し、自発管が計画書に繁栄させている。	・個別会陰会議は児童の下校時間により予定通り実施しにくいこともあるが、業務調整や隙間時間を使って共通理解できるようにする。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	・アセスメント表の内容共有。インフォーマルなアセスメントも記録やスタッフ会議・始業前ミーティングでタイムリーに共有。	・アセスメント更新や追加記載の場合は、自発管から職員に情報提供・共有をタイムリーに実施する。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・管理者主導でミーティングで共有。	・管理者の指導を受けながら、職員全員が参加・実践開始した。まとめを管理者や経験者が助言し、工夫は次に生かす。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6						

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	・当日タイムリーに支援の共有。翌日のミーティングで振り返り、評価の目安等も検討し、情報共有している。日報や記録に残す。	・ミーティング時間に余裕がない場合、職員LINE活用。意見交換を随時行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	・ときわ発達支援センターからの訪問指導は年1回受け、現状確認と地域の状況を情報共有し指導を受けている。事業所内で共有。	・継続的に実施していく。紹介を受けた研修参加奨励。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1		・今後行っていこう検討。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		・参加予定を調整して実施。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2		・今年度行える機会ができるか検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		・地域への広げ方を今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			・訓練の案内や実施状況などを保護者に周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			・必要な訓練を予定をしっかりと立てて継続実施する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			・医師指示がある児童はいないが、利用する場合の対応はマニュアル作成・周知しているので、実践していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				